

周囲天然歯を考慮したインプラント治療計画

神作 拓也 神作歯科医院

出身大学院：ニューヨーク大学歯学部 インプラント学

講演抄録

“インプラントは天然歯を守る”というフレーズをよく耳にする。逆説的ではあるが、インプラント自体は、欠損部位あるいは、抜歯予定の天然歯部位に埋入されるため、実際のところは、インプラント予定部位の隣在歯、対合歯、複数インプラント間に存在する残存天然歯等がその“守る”対象になるだろう。しかしながらこれらに関するエビデンスを構築することは、多岐にわたる臨床の本質からいって容易ではない。たとえば、インプラント予定部位の隣在歯の予後があまりよくないと思われる場合、その抜歯の可否は、術者の科学的な判断、対応した保存のテクニック、患者の要望等により異なる。また、難易度の高い歯を保存しようとする術者ほど、失敗率が増える可能性もある反面、予後不良な歯は抜いてインプラント“というのは、インプラントが長期に成功するのが前提であるうえ、抜歯後の骨量・質が良好とは限らず、安全策とは決して言えない。今回のプレゼンテーションでは、インプラント埋入に際して関連のある **compromised tooth**(理想的でない天然歯)において、保存あるいは抜歯した症例を用い、この壮大ともいえる命題を考察してみたい。